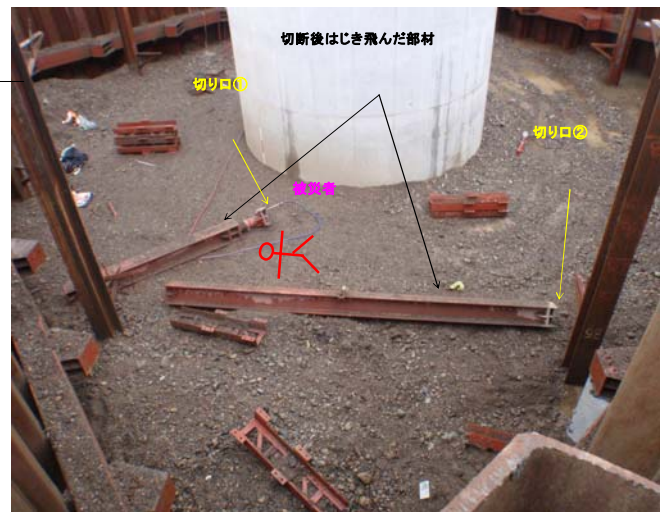
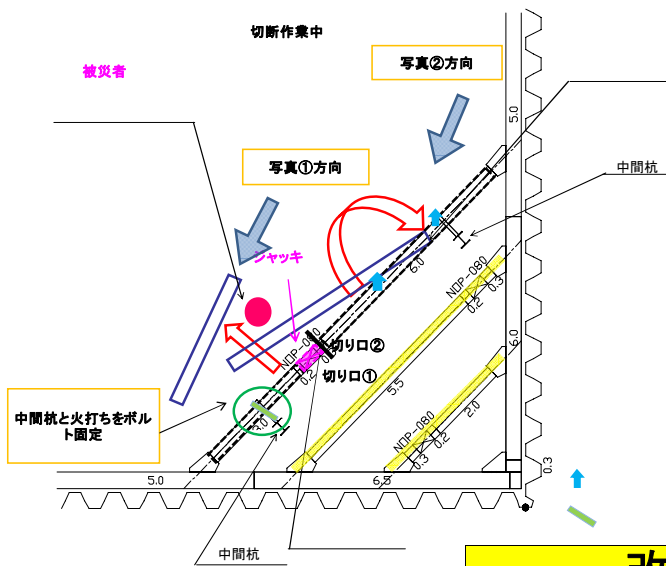


事故種類	労働災害	発生日時	平成24年6月5日 16時40分	事故当事者	3次下請け
事故区分	労働災害	年齢性別	27歳男性	職種	とび工
被災程度(全治)	左前腕開放骨折(全治8週間)				
事故概要	P9橋脚土留工の2段目支保工解体中、火打ちがジャッキを緩めても外れなかったため、部材をガス切断して外そうとしたところ、切断した部材がはじき飛び、被災者の左前腕に直撃した。				
4 事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・施工計画どおり施工してしなかった。 ・応力の大きい土留め部材(火打ち)を最後に撤去した。 ・土圧がかかっているのがわかっていながら、具体的な対処を行わず切断作業を行った。 ・土留部材(火打ち)の跳ね止めを設置していなかった。 ・土留支保作業主任者が直接、指揮を行っていなかった。 ・土留部材(火打ち)の撤去に際し、ジャッキによる除圧ができなかった場合について、作業手順書に記載がなかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・土留部材(火打ち)の取り外しは、応力の大きい内側から取り外す。 ・盛替ジャッキを設置し、応力を分散してから除圧する。 ・部材切断時は部材の跳ね止めを設置する。 ・作業主任者が直接指揮する。 ・作業手順書に部材切断を作成する。 ・作業中にトラブルが発生したら、作業を一時中断し工事最終責任者(監理技術者)に連絡し、関係者で打合せを行い、適切な作業を行う。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	土留支保工を施工する施工業者に対し、事故再発防止に向けた安全管理に対する再教育を実施し周知徹底を図り、今後の類似工事事故の再発防止を図る。				

事故状況図

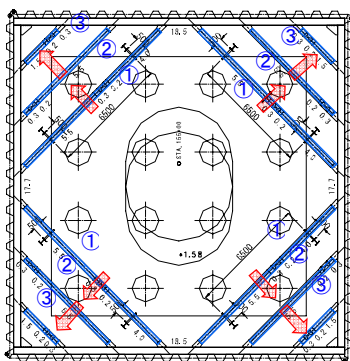


改善策

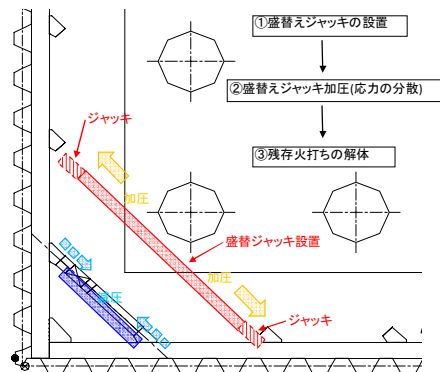
①土留部材(火打ち)の取り外しは、応力の大きい内側から取り外す。

②盛替ジャッキを設置し、応力を分散してから除圧する。

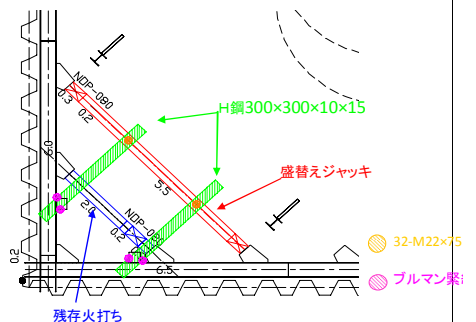
③部材切断時は部材の跳ね止めを設置する。



内側へ盛替えジャッキを設置して、応力を分散してから残存火打ちの除圧・解体を行う。



詳細図



④作業主任者が直接指揮する。

⑤作業手順書に部材切断を追加する。

⑥作業中にトラブルが発生したら、作業を一時中断し工事最終責任者(監理技術者)に連絡し、関係者で打合せを行い、適切な作業を行う。